

資料4

河川整備基本方針の改定状況について

令和4年6月23日

国土交通省 水管理・国土保全局

「十勝川水系河川整備基本方針」の変更(案)について

流域図



経緯

平成19年 3月 河川整備基本方針 策定

- 平成28年8月 4つの台風により被災
基準地点流量：約12,390m³/s **(観測史上最大)**
356戸の家屋、事業所等が浸水被害

- 令和4年5月 **河川整備基本方針 変更手続き着手**
社会資本整備審議会に変更内容を審議

令和4年 夏頃 河川整備基本方針 変更予定

「十勝川水系河川整備基本方針」変更の検討に係るポイント

- 平成28年8月洪水（観測史上最大の流量）、将来の気候変動への対応
※洪水防御の河川整備目標【案】帯広地点：6,800m³/s ⇒ 9,700m³/sに変更
（基本高水ピーク流量） 茂岩地点：15,200m³/s ⇒ 21,000m³/sに変更
- サケの遡上やシシャモの産卵場保全等を考慮した河川整備、霞堤の保全

「阿武隈川水系河川整備基本方針」の変更(案)について

流域図



経緯

平成16年1月 河川整備基本方針 策定



- 平成23年3月 東北地方太平洋沖地震により被災
沿岸部では津波による甚大な被害が発生した他、
広域地盤沈下が生じた

平成24年11月 河川整備基本方針 変更

地震・津波・高潮等に対する取組方針を追加するとともに、
広域地盤沈下に伴う計画高水位の見直しを行った



- 令和元年10月 令和元年東日本台風により被災
基準地点流量：約11,700m³/s **(観測史上最大)**
13,634戸が床上床下浸水被害
- 令和4年5月 **河川整備基本方針 変更手続き着手**
社会資本整備審議会にて変更内容を審議

令和4年 夏頃 河川整備基本方針 変更予定

「阿武隈川水系河川整備基本方針」変更の検討に係るポイント

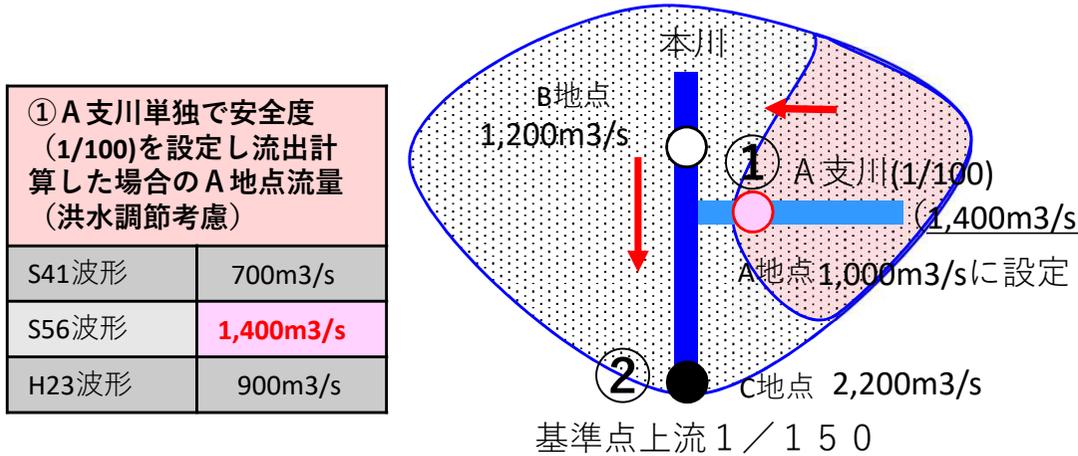
- 令和元年10月洪水（観測史上最大の流量）、将来の気候変動への対応
※洪水防御の河川整備目標【案】 福島地点：7,000m³/s ⇒ 8,400m³/s
(基本高水ピーク流量) 岩沼地点：10,700m³/s ⇒ 12,900m³/s に変更
- 流域全体の早期安全度向上、貯留・遊水機能を重視した本支川の流量配分

支川の計画高水流量の設定

【新たな支川の計画高水流量の設定の考え方】

- 流域の地形特性や降雨特性から本川と支川の同時合流のケースが多く、それによって本川において氾濫の発生が懸念される場合は、氾濫による被害を流域全体で最小化及び分散させるため、本川と支川の計画高水流量のバランスを考慮する必要がある。
- そのため、本川・支川で治水安全度を維持した上で、現況の流下能力、沿川の土地利用、浸水リスク等を踏まえ、本川のピーク流量計算時における本川・支川の計算流量を勘案して計画高水流量を設定する。
- なお、支川流域も含め流域全体の治水安全度向上のため、下流から順次実施する河川整備に加え、上流区間や支川流域において、沿川の遊水機能の確保にも考慮した河川整備、更に貯留機能を向上するための流域での取組を実施。（本支川バランスにおける「流域治水」）。

< 氾濫による被害を流域全体で最小化及び分散させるための本川と支川の計画高水流量の設定のイメージ >



②基準地点で安全度(1/150)を設定し流出計算した場合のA支川の計算流量(洪水調節考慮)

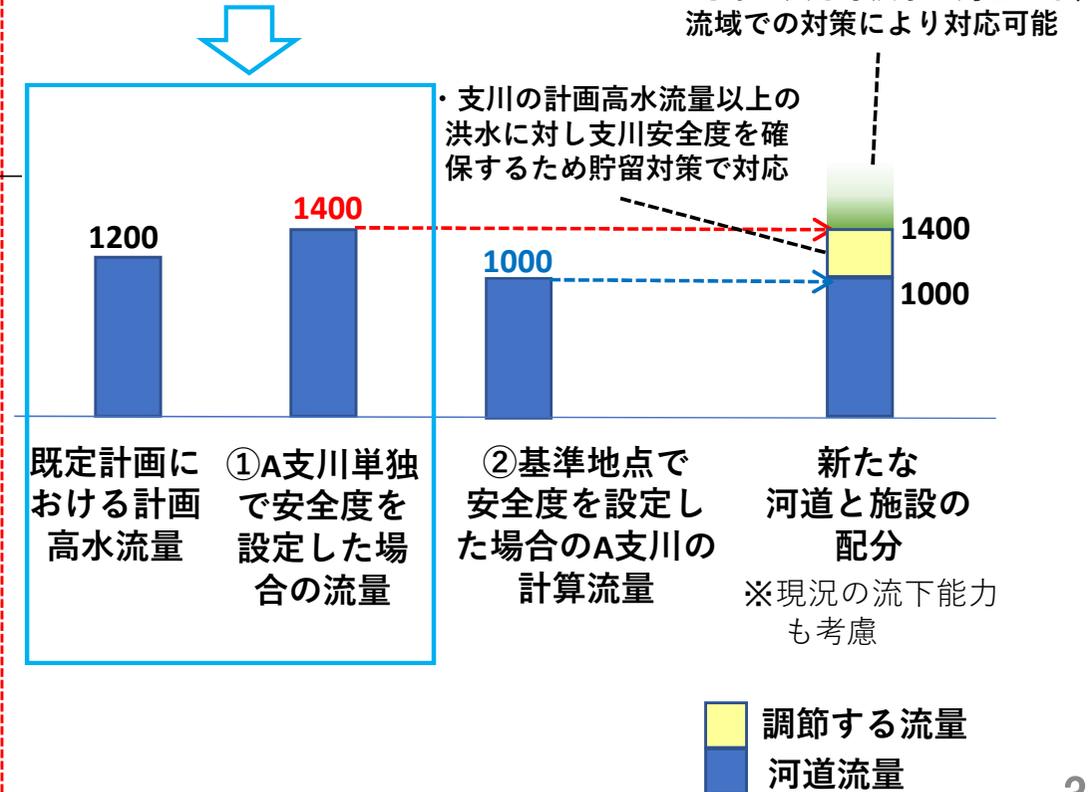
	A地点	B地点	C地点
S61波形	800m³/s	900m³/s	1,700m³/s
H10波形	1,500m³/s	500m³/s	2,000m³/s
R1波形	1,000m³/s	1,200m³/s	2,200m³/s

1,000m³/sを上限に設定

決定波形

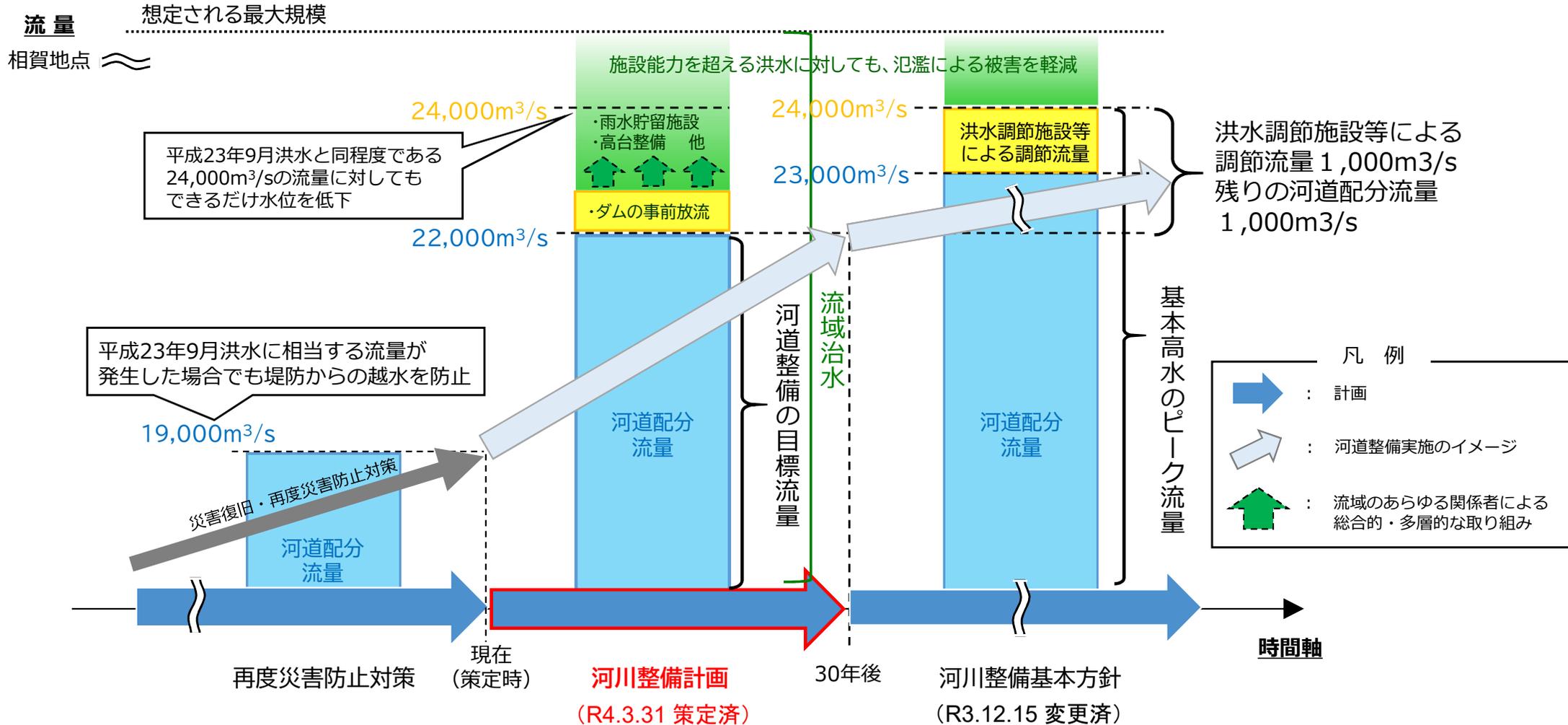
< A支川における設定過程 (イメージ) >

- ・既定計画策定以降の、近年データまで取り込み、さらに降雨量変化倍率を考慮して設定
- ・既定計画と同等の安全度を確保



基本方針改定後の整備計画策定について(新宮川水系熊野川)

○ 令和3年12月15日に新宮川水系河川整備基本方針を変更し、新宮川水系(熊野川)河川整備計画を令和4年3月31日に策定・公表。



既存ダム等の洪水調節機能強化のため、効果の定量的評価も踏まえ、より効果的なダム運用に変更するとともに、ダム施設改良等による機能向上の検討等、施設管理者と緊密に連携し実施することを河川整備計画に位置づけ。

基本方針改定後の整備計画策定について(球磨川水系)

○ 令和3年12月17日に球磨川水系河川整備基本方針を変更。令和4年4月4日に球磨川水系河川整備計画(原案)を公表し、パブリックコメントを募集。

河川整備基本方針

基本方針に沿った具体的な対策を河川整備計画で位置づけ
(あらゆる洪水に対し総合的・多層的に実施)

雨水貯留、雨水浸透施設整備、農業水利施設(田んぼダム)の整備、利水ダムの事前放流等の実施、高台への居住誘導、土地利用規制・誘導、二線堤、自然堤防の保全 等

